



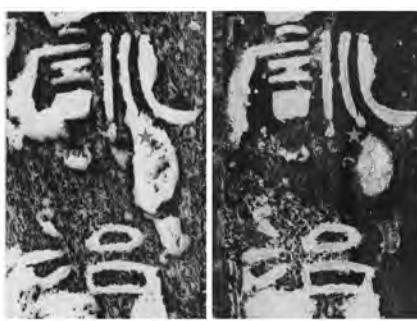
近拓本

旧拓本

図版③ 「訓」字・新旧比較

光緒二年八仲起撰
吟羊城

図版② 見返しの題記



「落ち穂拾い記」④

『孔宙碑・旧拓本』(上)

学生時代は、各種の金石拓本や蘭亭序を始めとする法帖の新旧の影印資料をできるだけ多く求めた。時折、古書店で原拓本を目にすることがあった。原拓本は、新旧の影印本と異なり、とにかく重厚感を感じた。表紙からして色々異なり、本も厚く重みがあった。店頭で見せていただくときは、できるだけ丁寧に取り扱い、破損しないように、書帙が付せられた高額な本は、注意深くページを繰った。原拓は、印刷本と異なり、本物の持つ臨場感がある。今から四十年前の三十代頃、普通の漢魏六朝碑の拓本が、専門店では数万円していた。私にとっては高いものであった。神保町の古書の市場では、曜日毎に各種の市があるらしく、毎週のように通って馴染みになると、そうした事情を教えられ、市で購入されたものをよく見せてもらった。端本や小品の珍しい拓本などを安く譲ってもらつたこともある。そうした店の一軒、本郷のH書店で、花梨の板表紙の、剪装本の漢の流麗で伸びやかな書風の『孔宙碑』を購入した(図版①)。題簽は無く、板表紙の見返しは薄茶色の画仙紙で、端に整齊な隸書で、「光緒乙酉三秋仲起獲於羊城」光緒十一年(1885)に入手したことを記した題記が書かれてあった(図版②)。碑帖拓本の

新旧や原刻、翻刻などの相違を各種の書物を見たり、影印資料との比較などを始めていた頃であろうか。購入後、二玄社の書跡名品叢刊の『孔宙碑』や戦前の『書苑』(三省堂刊)に書道博物館所蔵の宋拓本などを参考にし、求めたものが、原刻拓本であり、清末民国期の近拓でなく、「訓」字未損本とされる旧拓であり、拓調はやや淡い擦拓で鮮明に拓出されていると認識した(図版③)。書道博物館本は、古い拓であるが、虫損が甚だしく、字画が不鮮明であった。書跡名品叢刊の『孔宙碑』は、底本が西川寧先生所蔵であり、今回求めたのが、同じレベルの旧拓本であることが、大変嬉しかった。何度も他の資料や書跡名品叢刊本と比較したことを覚えている。また帖中には、先人の二十数種の鑑藏印(図版④)が捺されており、巻末の文字のない拓本部分には、清朝の有名な書法家・伊秉綬の金泥による跋文があった。碑法帖を勉強し始めたばかりの若造の購入した拓本にある有名な伊秉綬の跋(図版⑤)は、どう見ても偽ものであり、これがこの旧拓本の欠点であり、更に朱で捺されている鑑藏印のいくつかも変に目に付き、伊秉綬の金泥跋とともに目隠りに感じ始めていた。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)



図版④ 帖中に捺された各種の鑑藏印



書道芸術院 令和の群像 (2020)



三 浦 鄭 街

師、友、地域と共に 書の道を歩む

幼少の頃から父扇街に、その後扇街の師種谷扇舟先生、種谷萬城先生にご指導をいただいています。平成21年から足掛け7年、辻元大雲理事長のもとで書道芸術院事務局に所属し、「書道芸術学生版」の編集、全国学生書道展の運営を中心携わり多くの事を学ばせていただきました。自分自身にとって大変に貴重な7年でした。

書道を志した自分にとって、60歳までに毎日書道展審査会員になることが大きな目標で、平成28年12月、59歳の時にその夢が

現実になりました。辻元先生、萬城先生からそれを契機に「何か」というお話を頂き、平成29年、父扇街90歳卒寿「鄭街60歳還暦」の年の7月に銀座清月画廊に於いて「三浦扇街・鄭街親子二人展」を開催させていただきました。若い頃から扇街の書風とは違うことを良しと思っていましたが、親子一人展で右側に扇街、左側に鄭街の作品が並び対峙した時、父にはまだ敵わない痛感させられました。展覧会が無事終了し、安堵感とともに見えてきた今後の課題は、今一度、古典と向き合い深く学びつつ、より豊かな表現力を追求して行くべきだということでした。道のりは長いですがたゆまず精進していきたいと思います。

私はこれまで地域との関りを大切にして書活動に取り組んできました。「八街市子ども会新春書初め展」は最初は父扇街が指導に当りましたが、現在は私が引継ぎ、57回展を迎えました。少子化の中ですが出品点数は年々増加し1631点に達しました。特筆すべきは市内の小中高校の校長先生や担任をもつ先生方にも贊助出品していただいています。3年前からは「ふるさと八街」を意識した課題を掲げて取り組んでいます。多くの力を結集してさらに進化していることは嬉しい限りです。また4年前からは市内7つの幼稚園保育園の年長の子どもたちを対象に水書きシートを使った講習会を開き、就学前に筆に慣れ親しむ機会を設け、とても喜ばれています。目標は八街市を「書道文化いっぱいの街」にすることです。

今まで多くの先生方、書友、お弟子さん、地域の皆さんに支えられてきましたが、これからもそれらのご縁を大切にして「一步一歩確実に歩んで行きたいと思います。



書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

新型コロナウイルス蔓延で大混乱

昨年暮から始まつたらしい新型コロナウイルスの蔓延は、中国武漢から日本・韓国、そしてヨーロッパ世界各地へと広がり、パンデミック（世界的流行）とWHOが認定したという、とんでもない情況となつてゐる。皆さま方の周辺でもいろいろな影響が押し寄せていることと拝察する。

書道界でも3月初旬開催予定の創玄書道会展、謙慎書道会展など国立新美術館・東京都美術館などの公的な施設は軒並み使用が不能となり、開催もできないままになつてゐる。東京国立博物館など主要施設が全てアウトとなり、社会生活にも大きな影響を及ぼしてゐる。スポーツ関連、文化芸術面、学校教育関係も、巷の飲食店、ホテルなど大会場なども壊滅的な影響を受けていふようである。東京オリンピックも一年あまり延期が決定となり、世界的イベントも予断を許さない状況である。書道芸術関係者もお稽古の会場使用が規制されたり、生徒さんが自制して集まらないなど、様々な影響を被つていると思われる。情勢がどう変わるか不明だが、慌てず落ち着いて対応したい。

各種団体の主要行事も変更を余儀なくされ、公益社団法人全日本書道連盟理事会は書面理事会に変更、毎日新会部部長反省会、企画委員会などは中止、後述の定例理事会も書面理事会に変更など大きな影響を受けている。事情ご賢察いただきご理解願いたい。

院定例理事会（3月7日）も書面理事会に変更

3月7日に予定された公益財団法人書道芸術院定例理事会も情勢により開催を見送り、書面理事会として行つた。

これまで毎日展公募サイズ以内としたが更に多様な取り組みが出来るようサイズを2種とした。（3月号予告）

◎特別研究部門のサイズ変更
これまで毎日展公募サイズ以内としたが更に多様な取り組みが出来るようサイズを2種とした。皆さんの積極的な応募、活用を期待したい。（3月号予告）

◎審議事項
・役員の報酬に関する規則一部改正
・会員規則の一部改正

◎実用書部門

半紙1/2、またはB5コピー用紙にて掲載の実用文を書く。段級なし。

応募は誰でも可。

◎篆刻部門

模刻、創作いずれも可。八分角以内。

今月号（4月号）掲載から募集する。段級なし。応募は誰でも可。

◎6月号より新企画スタート

これまでの「21世紀の書」は主要作家にご登場いただき、所属部門の制作に対する姿勢や主張などを各6回に亘りご担当いただいたが、707号（2020年3月号）をもって終了とさせていただく。準備期間をおいて、710号（同6月号）より新シリーズがスタート。ご期待いただきたい。

◎新企画
（仮称）担当 下谷洋子常務理事
「かな基礎基本技法講座」

「書道芸術」競書部門の新設、改訂、誌代変更
門を一部改訂と共に、新部門を設けることとなつた。皆さんの積極的な応募、活用を期待したい。（3月号予告）

*本講座は競書部門ではなく、教養講座として開設する。

◎誌代改定

昨年10月より消費税10%引き上げに伴い、諸経費増、審査人件費、編集内容の充実などにより6月号より誌代を改訂させていただくこととなつた。誠に心苦しいところであるが、以前の消費税5%から8%に引き上げの折には内部努力により値上げせずに現在まで維持してきた。ご理解を。

◎篆刻部門
小品部門 小画仙半切以内、半切1/3
以上
＊大作部門 每日展役員サイズ以内
(2×8以下16平方尺)
＊小品部門 小画仙半切以内、半切1/3
以上
◎実用書部門
半紙1/2、またはB5コピー用紙にて掲載の実用文を書く。段級なし。

日本の自然と書の心「日本の書200人選
～東京2020大会の開催を記念して～」

既にお知らせしているが、東京オリンピック・パラリンピック開催を記念して協賛事業として開催される予定。

・会期 4月25日～5月10日
・会場 国立新美術館企画展示室E

・出品者 每日展、読売展、産経国際書会代表200名、障害を持ちながら活躍する書家。（院関係 辻元大雲・下谷洋子・大野祥雲・小竹石雲・小林琴水・千葉蒼玄）その他児童作品など

・映像 代表的な11名の作家による展示作品の制作風景（大雲メンバーに）

・文房四宝展示
3/24現在各種イベントは行わず、展覧のみとして予定通り開催する見込。

◎新企画
「現代詩文書基礎基本講座」

（仮称）担当 下谷洋子常務理事

「かな基礎基本技法講座」

（仮称）担当 下谷洋子常務理事

「現代詩文書基礎基本

書道芸術院春華賞

漢字部
佐藤菜扇佐藤
菜扇

第73回書道芸術院展におきまして、栄えある書道芸術院春華賞をいただきありがとうございました。

今回の作品「風塵」は昨年挑戦してみようとした題材でした。昨年は「塵」の表現が思うようにいかず断念しました。師・種谷萬城先生にご指導頂いた言葉をその後自分なりに解釈し、書道芸術院秋季展、白扇書道会選抜展と表現方法を変えながら書いた作品です。甲骨文字を素材として、誤字とならないように念入りに字典で調べ、時間をかけ試行錯誤を繰り返した作品で受賞することが出来、とてもうれしく思っております。

甲骨文字・金文等を素材として、現代の感覚を加味し作品を作り上げていくことは難しいこともありますが楽しいです。今後も努力を重ねて研鑽を積んで参りました

漢字部
木村澄春

書道芸術院大賞

木村
澄春

第73回書道芸術院展におきまして、栄えある「大賞」を頂き誠にありがとうございました。

夢ではないか?間違いで?信じられない気持ちでいいです。長年ご指導頂きました恩地春洋先生、現在ご指導頂いている小林琴水先生はじめ春洋会の諸先生方に心より感謝申しあげます。

恩地先生は「臨書せなあかん」と、いつもおっしゃっていました。なかなか書けなくとも先生は「急がんでいい」と。これからも、自分らしくゆっくりと、少しずつ前に進んで行きたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

第73回書道芸術院展

<1>

書道芸術院準大賞



「たちかはる」

秋山 久枝



「下第寓居崇聖寺」

坂田 華月



「片山由美子の句」

小野寺京芳



「かがやき」



「高浜虚子の句」

栗原 由紀

千葉
光泉

白雪紅梅賞

生きて初めての
意味 少心の行
そつぱに 胸を
うるましい吹き
あたかひす

山里の音聞か
ゆく会えた
奇跡は ひと
室石より
かいせつな宝物

江戸の日をう
絶望に嘆の日も
れか時半ばに
心寄るゆめ

二尺下草引が懐に
よみがえらみやうの
多情はの憂いの
山へむし 美和

「いのちの歌」

奥村 美楓



「澪」

西條 松雲



「摩周湖の月」

西城 菜花



「真」

石井 和子



「弦」

遠藤 紅杏

白雪紅梅賞

漢皇重色思傾國
御宇多年求不得
楊家有女初長成
養在深閨人未識
天生麗質難自棄
一朝選在君王側
回眸一笑百媚生
六宮粉黛無顏色

「長恨歌」

鶴田
恵子



「近作」二種

佐藤
花梢



過香積寺

中須
樂翠



一水は透明な：

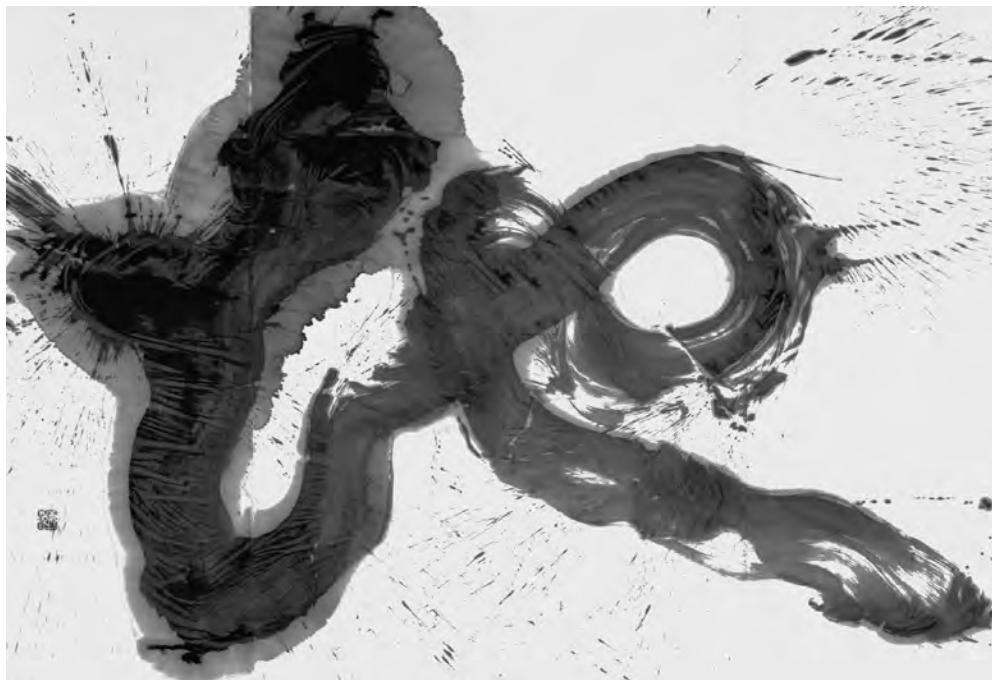
空戸
雲水



三
達

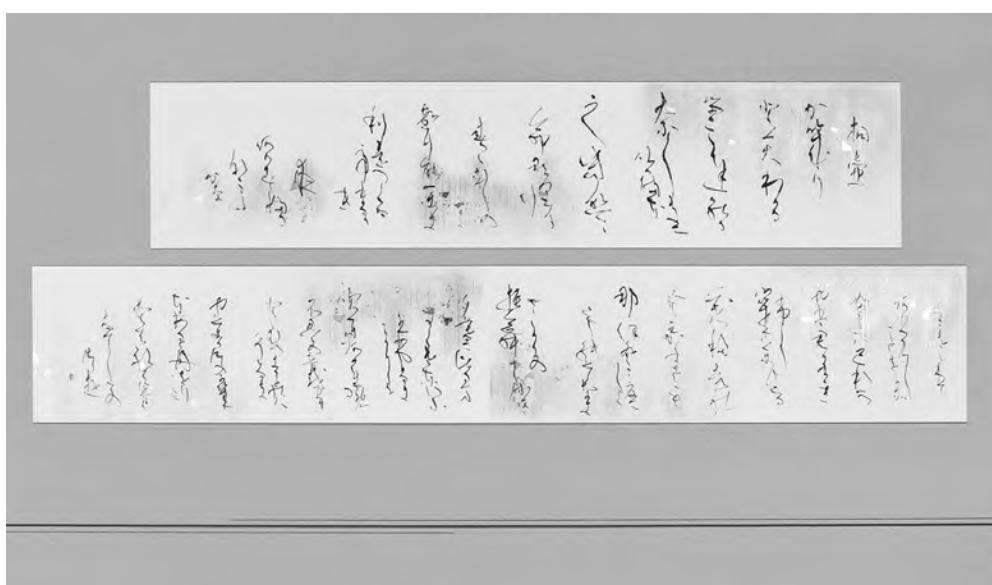
佐野文子

〈第72回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉



「地」 242×364cm

朝倉希代子



「桐壺」 60×260cm・53×300cm

九條 純代

〈第72回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉



「郷による」 240×360cm

大石 仙岳

書道芸術院俊英賞		<審査会員候補>	
<無鑑査>		院 賞	
新井 春麗(漢字部)	阿部 のぶ子(現代詩文書部)	岡本 通子(漢字部)	林 美奈子(前衛書部)
安藤 紹孝(漢字部)	石崎 甘雨(現代詩文書部)	小松 美恵(漢字部)	伏津 玲子(前衛書部)
伊藤 珠巳(漢字部)	加瀬 恵子(漢字部)	斎藤 杏晶(現代詩文書部)	山田 明子(前衛書部)
大友 四峰(現代詩文書部)	小野里高堂(漢字部)	佐久間玉瑛(現代詩文書部)	木下 紗華(現代詩文書部)
柿沼 彩香(現代詩文書部)	加藤 恵水(漢字部)	示野 紅邊(現代詩文書部)	柿沼 彩香(現代詩文書部)
田中 舞夢(現代詩文書部)	小林 藤穂(漢字部)	武井 志保(現代詩文書部)	大友 四峰(現代詩文書部)
近藤 淑子(漢字部)	近藤 淑子(漢字部)	坪江 彩苑(現代詩文書部)	柿沼 彩香(現代詩文書部)
田中 岳舟(漢字部)	種谷 森城(漢字部)	新田 雄山(現代詩文書部)	田中 舞夢(現代詩文書部)
高原 扇水(漢字部)	永井 明香(漢字部)	貫名 桂峰(現代詩文書部)	近藤 淑子(漢字部)
豊田 翠玉(漢字部)	中谷 伯葉(漢字部)	芳賀 志峻(現代詩文書部)	高橋 根橋(漢字部)
根橋 明香(漢字部)	樋井 鷺春(漢字部)	長谷川 翠(現代詩文書部)	高橋 明香(漢字部)
柳川 蝶月(現代詩文書部)	吉田 文苑(現代詩文書部)	藤原 利苑(現代詩文書部)	宮原 窓月(漢字部)
山道 西奈(篆刻・刻字部)	本間 文苑(現代詩文書部)	川村 由賀(現代詩文書部)	清水 由紀子(かな部)
後藤 真悠(前衛書部)	伊藤 碧水(篆刻・刻字部)	菊池 秀蓮(現代詩文書部)	高橋 佳子(かな部)
渡辺 理恵(前衛書部)	相澤 敦子(前衛書部)	佐藤 洋美(現代詩文書部)	長谷川 千峰(かな部)
菅井 智宏(漢字部)	阿部 俊吾(前衛書部)	芳賀 真優(現代詩文書部)	
池田 信子(かな部)	安藤 楓風(前衛書部)	山道 西奈(篆刻・刻字部)	
庄司 櫻空(現代詩文書部)	大竹 紅華(前衛書部)	後藤 真悠(前衛書部)	
大石 晶子(前衛書部)	川田 弘子(前衛書部)	伊藤 碧水(篆刻・刻字部)	
工藤 山房(前衛書部)	清水 政子(前衛書部)	相澤 敦子(前衛書部)	
鈴木 壱洋(前衛書部)	鈴木 壱洋(前衛書部)	大竹 紅華(前衛書部)	

(唐 653年)
褚遂良

①

〈解説〉玄奘(三藏法師)が國禁を犯してインドに渡り苦難の末に經典65部を持ち帰り、漢訳したことに対し、唐の太宗皇帝がその功績をたたえるために聖教序を、さらに皇太子(後の高宗)が序記を撰文して二碑を建立した。これが雁塔聖教序である。碑文は「初唐の三大家」の一人である褚遂良(596—658)の58歳(653)の

書である。序碑の本文は21行、行42字、全92字である。褚法と呼ばれる褚遂良の楷書は、筆の彈力を生かして自在で軽快な筆使いに特色がある。現在、陝西省西安市にある慈恩寺が創建された際に大雁塔に安置されたことからこの名で呼ばれるようになった。

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)



(掲載図版80%に縮小)

漢字研究部臨書課題

(半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

(A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)

(B. 小作の部—半切1/3以上半切以内 (A・B縦横自由))

当該古典の上記掲載部分以外も可。

よみへる
かへる
かりをよめる
いせ
はな
きさと
すみやならへる
だいしらす
よみびとしらす

利徒達
をりければそこでこそにほへむめの花
ありとやこゝにうぐひ
(す)のなく

はな
きさと
すみやならへる
だいしらす
よみびとしらす

※掲載図版は75%縮小。

〈解説〉
高野切は、「古今和歌集」現存

最古の写本で、もとは20巻の巻物
であったが、後に切り離され、現
在、巻五・八・二十の完本、巻一・
二・三・九・十八・十九の一部が
断簡で残っている。「古今和歌集」
巻第九の巻頭の断簡（大阪・湯木
美術館蔵）が高野山に伝来したこ
とから、この一連のすべてが「高
野切」と呼ばれている。筆者は、
紀貫之（861？～945）と伝えられて
いるが、実際は100年あまり後の11
世紀中頃の3人の能書が分担して
書写（寄合書）したと推定される。
その書風から第一種・第二種・第
三種に分類される。

この第一種は、優雅な落ちつい
た運筆で格調が高く、かなの典型
を示す古筆として尊重されている。

※古筆は原寸（以上も可）で
臨書しましよう。

（編集部）

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査員・会員サイズ以内、2×6尺・金紙也可
別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

B. 小作の部=半切以上、半切以内（縦横自由）
△いずれも左記の掲載以外も可。△

あ
る
は
う
に
ま
い
の
な

（個人蔵）

※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨（押印のみも可）

※古筆は原寸（以上も可）で
臨書しましよう。

習い方解説 (一)

半田 藤 扇

翰逸神飛 (孫過庭「書譜」)
(翰は逸り神は飛ぶ)

運筆が熟達し書法が会得された
結果、到達する至妙の境地

「書譜」は唐時代687年に、孫過
庭が書かれたいわば書論です。そ
の中から語句を取り上げ、6回シ
リーズにわたり、創作への展開と
いたします。

今回は、羊毛筆を使用し、行書
体で各々文字の中に、太・細の線
を組み入れ温和で明るい作風に仕
上げてみました。

※左掲の「参考作品」は、中峰の穗
先の利く羊毛筆で線の響きを重
視した表現に挑戦してみました。



書体=自由



翰逸神飛 よみ(翰は逸り神は飛ぶ)

太平邑峰

公直無私
(公直・私無し)

今月より半年間担当することになりました。よろしくお願ひします。書体は楷書と指定されているので、改めて向き合っていこうと思います。



楷書は歴史的には隸書から派生し、簡単で解りやすく、正式な書体として確立されてきました。古い時代には真書、正書などと呼ばれ、書体として完成した唐以前の資料を見ると、様々なものが多く残されており見ていて楽しいものです。今回は三国時代魏の鍾繇の書をイメージしながら、あまり堅苦しくならないよう素朴な表現を狙ってみました。筆は唐筆の中峰の羊毫、濃墨を使用しました。全体的にはゆっくりと大らかにリズムを大切にしながら、毛の弾力を楽しむようなつもりで書いてみました。

かな規定 初段以上【五月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (一)

下谷洋子

明日香川瀬々の玉藻のうちなびき
心は妹に寄りにけるかも
(万葉集)

恋慕う気持ちは、明日香川にな
びく藻のように寄り傾いている
の意。

書道界は、ユネスコ登録のため
に、書道文化普及継承のための活
動を行っていますが、書の中でも
かなは特に日本特有のものです。

流れが美しいのがかなですが、切
断の美^{まき}や『間の美^ま』もあり、かな
表現の多彩さは、一つの書体とし
ては別格でしょう。

ただ、初めて創作する方は、ま
ず美しい連綿が書けることを目標
にしてほしい。注意点を記します。

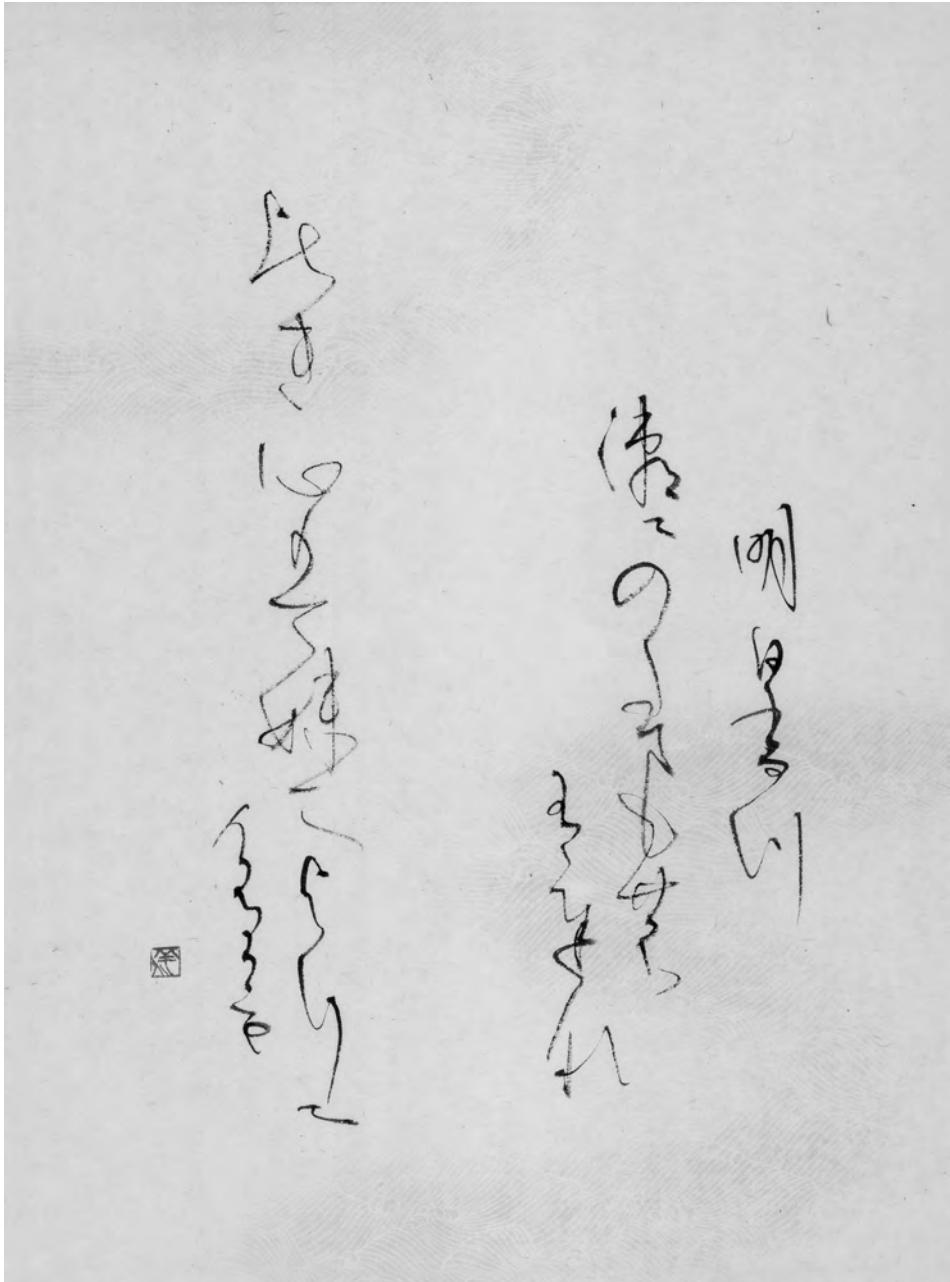
- ・同形の文字が続かない
- ・多くても4~5字位までにする
- ・連綿しつこい組み合わせでは、
 切るか変体がなを利用する

変体がなはたくさん覚えましょう。

よみ方

あすかがはせぜの玉(多万)藻(も)の(農)う(有)ち(遅)な(那)び(比)き
心は(盤)妹に(一)寄(与)りにけ(介)るか(可)も(毛)き

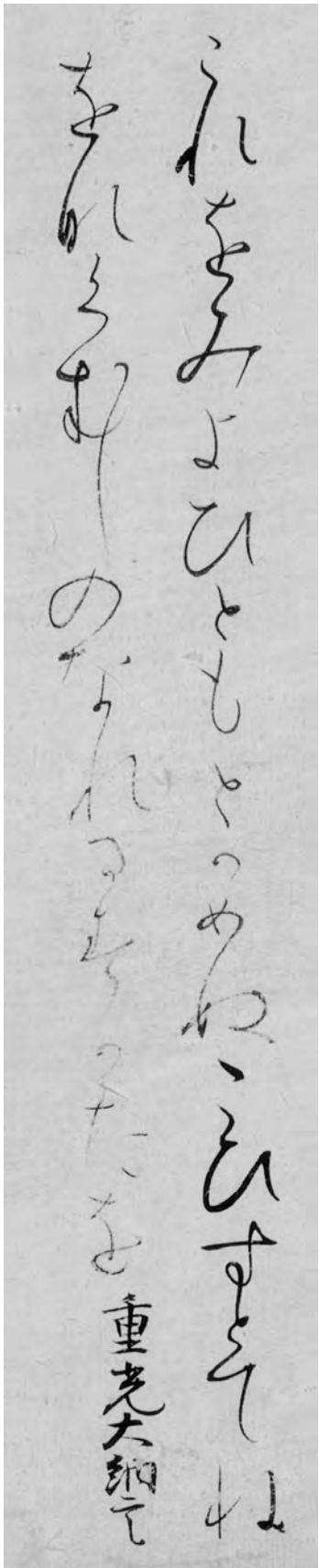
創作



かな規定 秀級以下【五月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 これをみよひととが(可)めぬこひすとてね
をな(那)くもしのなれるす(春)が(可)たを重光大納言

習い方解説 (一)

善養寺紅風

あだなりと名にこそ立てれ桜花
年にまれなる人も待ちけり

(古今和歌集)

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書

あだなりと名にこそ立てれ桜花

あだなりと名にこそ立てれ桜花

よみ方 あだ(多)な(奈)りと名に(耳)こそ(處)立て(天)れ桜花
年に(一)ま(満)れ(連)な(那)る人も待(万)ち(遅)け(介)り(利)

創作

作品を書く時 潤筆から渴筆になりますまでを同じ速度で運筆すると
筆の腹でこすりつけたような汚い線になります。渴筆になってきたたら筆を起こし穂先が紙に食い込むように書くと、リズムも生まれて美しい線になると思います。

「あだなり」は、はかなくての意。

*タテ形式に限る

習い方解説 (一)

種谷 萬城



一爲遷客去長沙 西望長安不見家
(李白「與史郎中欽臘黃鶴樓上吹笛」)
(たび遷客となりて長沙に去る、西長安を望むも家を見ず。)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下 [五月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (一)

小竹石雲

半紙に比べ、紙も文字もかなり大きくなります。一作に投入されるエネルギーも大きくなくてはなりません。

- ・筆は余裕のある大きめのものを
- ・墨はたっぷり筆に含ませる
- ・泰然と紙面に立ち向かう
- ・以上の準備ができたら、焦らず怯まず、体当たりで紙に自分をぶつけてください。実に気分爽快です。

漢字最古の書体は篆書(甲骨文・金文・小篆・印篆など)です。篆書作品制作には、専門の字典で校字、藏鋒・中鋒の筆法、左右相称・等分割など、楷行草書とは異なる書法の学習が必要です。今月は、石鼓文に傾倒し、無機質な篆書に独自の造形感覚と筆意を加え、魅力的な書風を生み出した呉昌碩の小篆を参考に書きました。
※タテ形式に限る

悠然得佳趣
(悠然として佳趣を得)(傳察)

書体=自由

廣瀬舟雲

夏は涼しく冬は暖かに、

花は野にあるように、刻限

は早めに降らずとも雨の

用意、相客に心せよ。

舟雲かく

※読み
相客

東京へ五輪を招致する際のプレゼンテーションで一躍有名になった言葉が「おもてなし」。その基本の考え方となつたというのが「利休七則」。今回後半の五則を引用する。利休が弟子から「茶の湯とは」と問われた時の答え。弟子は「それ位、知っている」というと利休は「もしこれらができるなら私はあなたの弟子になりましよう」と。簡単そうで難しい事と言外に秘める。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

(千利休「利休七則」)

夏は涼しく冬は暖かに、
花は野にあるように、刻限
は早めに、降らずとも雨の
用意、相客に心せよ。

拝啓 敬具 陽春 桜花の候

拝啓 敬具 陽春 桜花の候

春風が心地よく感じられます

春風が心地よく感じられます

姓
号

(楷書) 拝啓 敬具 陽春 桜花の候
(楷書) 春風が心地よく感じられます

(行書) 拝啓 敬具 陽春 桜花の候
(行書) 春風が心地よく感じられます

基本用語 「拝啓」頭語、敬意を表す書き出しの言葉。
「敬具」結語、拝啓に対応する言葉。

一般的に用

*小筆・筆ペン・サインペンなどを使用。署名は各自の姓号を。

(掲載手本90%に縮小)

用紙は普通版半紙1/2、B5版コピー用紙でも可。

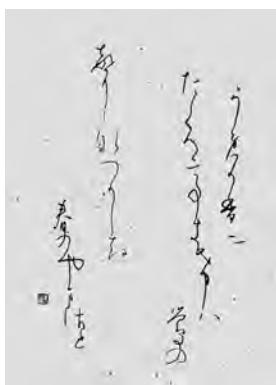
所定の出品券を作品の右下に貼る。〈審査会員を含む誰でも出品可〉

今月の

ホープ作品
各部総評 NO.706

かな部 師範 加藤 翠陽
伸びのびと運腕大きく、しかも
穏やかで明瞭、リズムの自然体が
見る側にも心地よく映ります。

◎かな部総評 紙の大きさに対し
てどの程度の字の大小・太細が多い
のか、把握してない方が多い。
手本の拡大コピーを。（洋子評）



漢字条幅部 師範 豊田 翠玉
リズム感よく、のびやかな木簡
隸表現。安定した運筆でバランス
よくまとまった作。落款も調和。
◎漢字条幅部総評 上下級共2行
書き表現はほぼ安定した作が多く
た。やや平凡な作が多く、書体書
風の研究を更に。（大雲評）

青雲有路十峯見碧
海無波万里開 翠玉書

前衛書部 特選 西山 茂龍

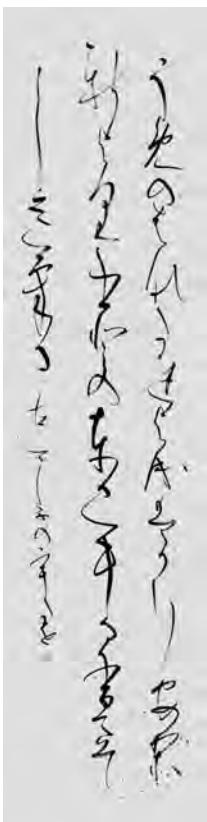
周到な構成力に感銘。線の中に
残る白まで効果的に、明瞭かつ斬
新さを加えた力作。

◎前衛書部総評 意欲的な作品多く
頼もしく思う。マンネリになら
ぬよう一工夫に期待。（慧香評）



かな条幅部 師範 斎藤 杏邑
古今集の歌を勢いある線で一貫
し、古典美と現代性を兼ね備えた
見事な作品。用紙選びも大成功。

◎かな条幅部総評 墨色で紙面の
美しさを損なった人多く残念。漢字、
変体がなの誤字多く、基本の学習
のおさらいを勧めます。（明子評）



現代詩文書部 特選 米谷 恵琇

構成の斬新さ、個性豊かで軽快
な造形。風と光のからみ等躍動感
に溢れている。

◎現代詩文書部総評 筆の弾力や
開閉を生かすよう作品作りに心が
けたい。（掃雪評）



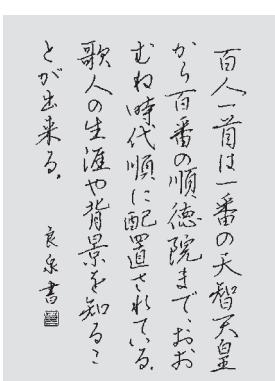
漢字部 師範 三浦 小樹
柔毫筆を巧みに用い、潤渴、細
太、軽重、曲直の変化を演出。見
応えのある上質な線は魅力溢れる。
◎漢字部総評 上級者は篆隸楷行
草共創意溢れる意欲作が多く見ら
れたが、校字不充分で点画が不正
確な作品も目についた。（萬城評）



ペン字部 師範 後藤 良泉

天地左右の絶妙な余白が、繊細
温雅な筆致を際立たせ、実に豊か
な表情あふれる作品となった。

◎ペン字部総評 字形よく流れの
ある作品が多くだが、左右の行間
の余白がなく広がった作品もあり残
念。余白効果を大切に。（孝予評）



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 最首翠風 山口仙草 奥田瑞舟

◆毎月「特別研究部」に熱心に取り組んでいる。今回の作も迫力ある隸書で造形美見事。中心がやや左に寄ったか。(仙草評)

◆現代的な古隸の創作。峯は平板な線が目立ちやや単調。極の深みと変化が他の字にも欲しかった。(翠風評)

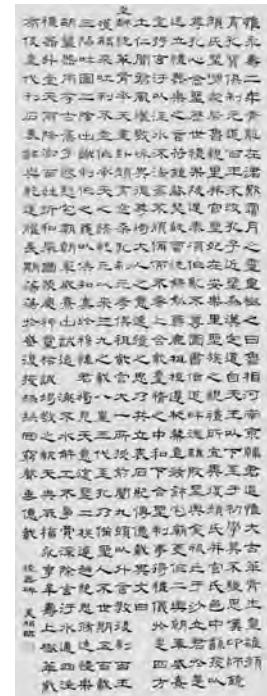
◆大胆な濃墨と長鋒の太筆の動きに魅せられた。一気に右払い力ある隸書で造形美見事。中心がやや左に寄ったか。(瑞舟評)



嵐中成山

180×60cm

漢字 (大拙社) 嵐中成山 「登峯造極」



164×60cm

嵐山美梢

◆終始一貫、この精神力、技術力に感嘆する。波法に少し乱れがあつても?とは望み過ぎか。(大雲評)

(翠風評)

◆最後の一字まで氣力の統一は難しいと思うが、素晴らしい集中力に感服しました。(瑞舟評)

◆「礼器碑」の特徴を細部まで観察。全体に引きしまった書線で統一され、見応えのある臨書作となつた。(仙草評)



西山葵龍書

60×90cm

現代詩文書 (白珠)
西山葵龍 「秋乃の詩」

◆舞い踊るようなりズム感と、大小二集団による構成が素晴らしい作。大字の二連筆の破線少し整理を。(大雲評)

(翠風評)

◆二本の筆を使い、紙面を見事にまとめている。終筆に至る文字バランスに注意すると更に充実した作になれる。(仙草評)

◆濃墨で潤筆と渴筆を2本の筆で巧みに構成されて成功作。後半の細字部も円形にまとめて落ち着く。(瑞舟評)

臨書 (大雲) 鷺山美梢 「礼器碑」

漢字研究部
(礼器碑)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



北爪美和

漢字研究部 特選 北爪美和

漢隸の典型的な書の一つである礼器碑の特徴を見事に表現されています。始筆・転折・波磔などの用筆、方整で精妙な字形等よく觀察し、且つ自然体の臨書で鍛錬度高し。余白の美しさも清々しさを醸し出しています。

◎漢字研究部総評
この碑は、祭祀用の礼器を整えた時の記念碑です。臨書するにあたっては、内容を理解



清空瑤順晶順
洗心翠子子子

淳紫裕菜翠潤
泉苑子々玉

清睦白叙紫紗
耀月昇孝遊羅

妙揚素敦信美
子風子子代楓

することが必要不可欠です。その上で形、線質等全体の特徴を捉え、一点一画原帖に忠実に筆を運ぶ姿勢を身に付けてください。今回も誤字が多く見受けられ大変残念に思います。比較的鮮明で見やすい課題です。目に映ったままに書くのではなく、辞書を引いて正しい文字を書くことが書を学んでいく上での基本であると考えます。

することが必要不可欠です。その上で形、線質等全体の特徴を捉え、一点一画原帖に忠実に筆を運ぶ姿勢を身に付けてください。今回も誤字が多く見受けられ大変残念に思います。比較的鮮明で見やすい課題です。目に映ったままに書くのではなく、辞書を引いて正しい文字を書くことが書を学んでいく上での基本であると考えます。

かな研究部
(寸松庵色紙)

選評 松村くに子

今月のホープ作品



藤小佳

正洋葵

葵和幹

佳香
加代
舟子

瓊秋恵

子子龍

郷子生

鷺山美梢

墨色の変化、重厚味ある線筆などしっかり捉えています。特に、細い連綿線は鮮やかに流れ、太い線質部分との響き合いが美しく表現されています。

◎かな研究部総評

4行目の行尾が極端に長い作品が多かったです。散らし書きの妙を学べる古筆です。行間や行の長短にも気を配ってください。

4行目の行尾が極端に長い作品が多かったです。散らし書きの妙を学べる古筆です。行間や行の長短にも気を配ってください。

かな研究部 特選 鶩山美梢

かな研究部成績表

誠花大正塙松白和舞雲華和村珠秀	蘭潮明麗こ祥高紅澄こ墨大も竹桜上泉白玉清う紅紅高大鼎音漢澤こ紫陵瑠春だ花雲く扇草泉会珠松月る鳳瑠崎雲
鶴伊磯石安青相澤藤貝川藤木内知	川斎小須加山會藍小吉小高岡高苗根辻西青境飯岩須小鷲山佳美優杏和萩翠勇白輝桜智玄蘆小佳正洋葵和幹代香舟子梢
琴悦清津裕玉沙莉	優杏和萩翠勇白輝桜智玄蘆小佳正洋葵和幹代香舟子梢
佳	京明琇華椿高中石高大誠椿前麗上立紅琇書明菊竹蕙蒼正立大樹正椿A澄橋漢韻仙翠崎川習真雲和翠橋澤泉精風韻泉漢月美書陽華精雲原華翠I春
青木作	吉吉山安矢三松松坂福平春長中中千田竹七島島櫻坂込木菊河葛島大生字田川口鳴田丸尾切原山山谷村江田烟内五田本山原地合田島方田千真有か川シミ寿美三外由川
松月	佑鶴幸雪沙登蒼愛希幸里つ勝ゲよ白美智和美悦智里美輝白和恵麻昌美春子子惠翠子江舟石子雲萌子美翠子子香子子美子舟美翠子雅敬美美子子華
游菊仙京水月台橋入	こ昌幸華あこ高華若松長上蘭一東玉姫北高竜土正竹書正た大硯春正こ大文白琇大青中白八日岩誠大高光だ苑扇仙かだ崎仙松村月泉鼎弦向松路原真眞泉氣華原游華か拙水汀華だ雲筆扇韻雲蓮川鶯街新沼和阪殿彩
荒新熱東川井海	吉吉山柳本宮松前藤躑躅原早林早島橋乘仁鶴武高杉杉代庄柴猿佐佐佐小小黒熊神加片小大大井石石生飯天浅野田本瀬吉川浦川江生尾澤部坂山本船木淵井橋田浦田司田渡藤々沼島柳谷田納山島木上橋崎騎鶯鳥羽川多み
裕惠桃花子	彩翠梅奈明洋玉藻し紀ほ典雅萌芝紅抱光亞一雅祥幸葉咏洋簾陽雅和美み竹紫典順恵朱竹歩芝嘉正甘萩律恵な彩綾香津香子江仙子子の朗子香香霞花堂希江泉風子子艸右子芳子結子葉蘭子子風星鳳佳雲子子雨華
大上玉や有桜玉白祥樹八八谷秀春光高澄英楓樹翠黎大た春高附若英伏華東広華無青書大玉梅黎た土澄久澄八華八有こ水椿雲泉松ま秋草川露原生雲秀歌汀彩崎春峰葵原吟明阪か汀真中葉峰華仙向島祥門峰游阪藻桃明か氣春賀春祥街秋だ海翠	
積塚田田武高関春杉庄篠七穴椎佐櫻酒齋後紹近小小木國工吉岸菊菅川加勝鹿小小荻大大梅臼植宇岩井板石石五飯安田本中玉山橋根原田司田條戸名々田井藤藤藤野藤林林原蒼峰藤瀬地野本藤野寺原西嶋津井田井測瀬ノ垣渡川十泉藤美佳	
雅え耶哲花美代慶睦紫美裕谷光淳龍知翠早良遊閑桃萩晃馨美琴山彩民恵静南雅天裕よ萩玉一唯代綾紅楠祥祥春青翠洋佳洋代雲子衣子源好子子千子美秀子子貞子香苗泉山窓奈江代子紀翠房雨子水代汀芳心子こ雨麗苑園峰鳳徑子栄子	
遷芳幕竹東黎桜竹桜松八春硯菊大大墨長蓮上前も澄長京琇た上大上幸白水青高高澄大書水春洞一大東耕大秀白もたA外蘭張美伯明草美草村街汀水月阪雲宣月紅泉橋く春月橋韻が泉阪泉扇露海蓮陵崎春雲泉堅汀書草阪実雲	
151渡吉横山山山八守茂子富宮宮宮三真增本本別福深深平春林浜瀆橋萩野野根沼丹二浪名永永中中中中中道富富富戸樋寺名邊川山本中木友木上野澤崎坂浦庭田田多府富堀澤山岡野田本原村口岸田羽通川取并山村村西庭井原田澤部泉原氏紗久橋志満タさ美久と美	
名信泰蘭真和美紀津翠佳達草英萩道ケ佳美和信惠清佳だ聰余永陽都洋幸美み垂蕙麗秋美伯悦知寛一恵白弘扇萩惠白蘿雪蕙略溪香舟紀子子舟子芳月枝秋明苑子ミ子雪枝子子洗月子春子宣一子子城子子心子子花紬泉子子琴子昇枝水彩子雲風草	

〈半紙の部 大賞作品〉



(小) 米 増 彩 実



(小) 権 田 日向子



(大) 大 山 秀 祐



(高) 松 田 朱 菜



(中) 濱 本 凜 桜

ごあいさつ

公益財団法人書道藝術院 理事長 辻元大雲

昨年70回の記念展を迎え、本年は新たな気持ちで71回展を半紙の部と半切の部の2部門で開催いたします。半紙の部では文部科学省學習指導要領に準拠した書写の基本を重視しつつ、子供らしい元気な表現や、大らかな作品などもあり多彩です。課題、出品点数も自由ですが、学年それに適した語句が推奨されます。半切の部では今回から一人3点まで出品可とし、指定語句による課題の他に自由課題でも出品できるようにしました。その影響からか内容も様々で、楽しい作品も多くありました。高校生、大学生は半紙の部、半切の部共自由課題で、古典臨書から創作まで多彩で、表現力も高度な作品が多く見られました。

更に昨年から展覧会場での席上揮毫会を実施し、大変な好評を博しましたので今回も継続して行うこととしました。半紙の部、半切の部両部門の大賞受賞の皆さんにご協力いただき、表彰式当日（2月9日）午前10時より行います。本院幹部役員の先生方にも代表して揮毫していただく予定です。

また会期中2回（2月8日、11日、両日とも午前10時半より）書を楽しむワークショップも開催いたします。参加無料ですので是非とも多くの方々の参加をお願いします。高齢下さるようお願い申し上げます。

△ 半紙の部 準大賞作品 △

小四 吉門 桜彩
つ花まり

小六 小谷果凜
晴れ日本

小六 折田未来
記念

一年 柴川竜太朗
挑戦

中二 都丸愛理
一千歩

(小) 吉門 桜彩

(小) 小谷果凜

(小) 折田未来

(中) 柴川竜太朗

(中) 都丸愛理

中二 萩谷麻央
夢無我中

中三 岡本楓
夢無我中

高柏井美緒奈
満胎蔵頂

高船越真樹子
美緒奈

高館石結奈
都丸愛理

(中) 萩谷麻央

(中) 岡本楓

(高) 柏井美緒奈

(高) 船越真樹子

(高) 館石結奈

〈半切½の部 大賞作品〉



(高) 中 内 純 香



(中) 石 川 結 理



(小) 長 尾 侑 哉

〈半切½の部 準大賞作品〉



(中) 石 泽 音 羽



(小) 楠 瀬 心 実



(高) 畠 山 桃 子



(中) 大 黒 もえ花



(中) 横 山 未 空

第71回 全国学生書道展 「指導者作品展」役員作品



顧問・名譽会員 小伏竹村



「虚己」
顧問・名誉会員 大野祥雲



「抱樸」 運營委員長 辻元大雲



「大吉」
顧問・名誉会員 浜 谷 芳 仙



「無」
実行副委員長
後藤大峰



冬日和
實行副委員長 小竹石雲



「春の初め」
実行委員長 下谷洋子

● 篆刻

【五月十五日締めきり】

〈出品規定〉

- ① 摹刻 (ア) 課題による語句
(イ) 原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)
- ② 創作 語句自由



漢印

「軍司馬印」

4月号 摳刻課題

- 印面の大きさは 2.3cm (八分角)
以内とし朱文、白文自由。
○印箋については市販のものでも、
半紙横 1/2 の大きさに切ったもの
でも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。
審査会員を含む、誰でも出品可。

用紙の右側に押印し、左側に印影
の記文を明記、並びに落款(氏名)
を入れる。

◎ 出品方法



漢印
「軍司馬印」

摹刻 (白文印例、八分角約 2.3cm)



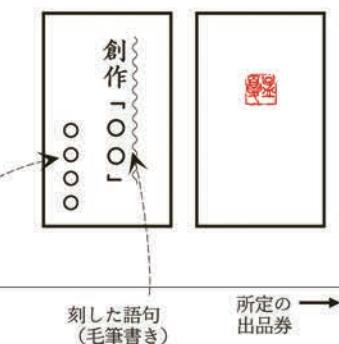
「孟夏」

創作 (朱文印例、八分角約 2.3cm)

〈参考作品〉

後藤 大峰 刻

* 印箋使用の出品 (創作例)



送 料

お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

1部	79円	1か月の購読部数が 1部～9部までの1回の郵送料
2部	95円	
3部	103円	
4部	119円	
5部	135円	
6部	151円	
7部	167円	
8部	183円	
9部	199円	
10部以上は		
		送料免除

定価 一部 七〇〇円

令和二年三月二十五日印刷
令和二年四月一日発行

編集兼
发行人
アーティスト
印 刷 株式会社 リンクス
印 刷 小沢写真印刷株式会社
發行所 公益財團法人 書道芸術院
101-0031 東京都千代田区東神田一～六七
電話 (03)3862-1954 東神田プラザビル三階
FAX (03)3862-1957 振替 00150-41-350558
<http://www.lines.co.jp/shohei/>

◎ 郵便物・清書・送金・一般事務等は
〒101-0031 東京都千代田区
東神田一～六七
東神田プラザビル三階

公益財團法人 書道芸術院
電話 (03)3862-1954
FAX (03)3862-1957
10部以上は
送料免除